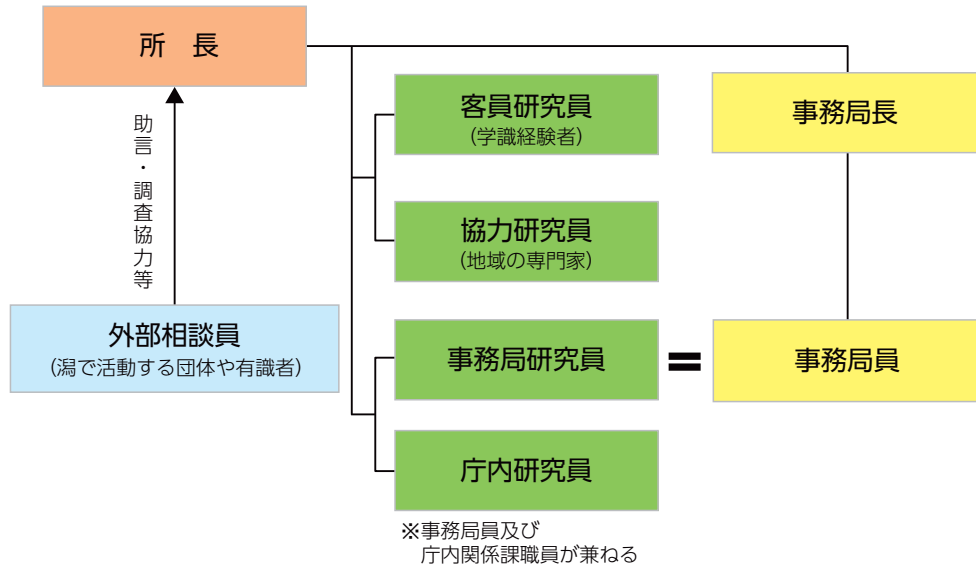


参 考 资 料

平成29年度潟環境研究所 研究体制

《組織体制図》



所長

- ・大熊 孝：新潟大学 名誉教授（河川工学）、ビュー福島潟 七代目名誉館長

客員研究員

- ・澤口 晋一：新潟国際情報大学 国際学部 教授（地形学）
- ・吉川 夏樹：新潟大学 農学部 生産環境科学科 准教授（農業水利・農業土木）
- ・志賀 隆：新潟大学 教育学部 自然情報講座 准教授（植物分類・保全生態）

協力研究員

- ・井上 信夫：生物多様性保全ネットワーク新潟（魚類）
- ・太田 和宏：赤塚中学校地域教育コーディネーター（歴史的調査・建物）
- ・高橋 郁丸：新潟県民俗学会理事（民俗学）

事務局・研究員

- ・小泉 英康：潟環境研究所 事務局長
- ・吉川 巨人：潟環境研究所 主査（係長相当）
- ・隅 杏奈：潟環境研究所 主事（学芸員・民俗）

庁内研究員（併任）

- ・中島 正裕：文化創造推進課 主幹
- ・工藤 勇一：環境政策課 係長（主幹）
- ・小林 博隆：環境政策課 主査
- ・阿部 秀人：環境政策課 主査
- ・野沢 博志：まちづくり推進課 主幹
- ・鈴木 真希：まちづくり推進課 主事
- ・長谷部 原：公園水辺課 係長（主幹）
- ・西脇 哲：北区地域課 係長
- ・長井 直木：東区建設課 係長（主幹）
- ・伊藤徹太郎：中央区地域課 係長（主幹）
- ・佐藤 瑛子：江南区地域課 主事
- ・大野 雅道：秋葉区 地域課 係長
- ・新井田 智：南区地域課 主査（係長相当）
- ・杉山 成幸：西区地域課 係長
- ・豊島 徳敏：西蒲区地域課 係長（主幹）

外部相談員

- ・阿部 由幸：新潟市土地基盤整備推進協議会 企画部会長
- ・五十嵐初司：じゅんさい池公園を守る会 事務局長
- ・大谷 一男：黒埼南ふれあい協議会 会長
- ・加藤 功：新潟映像制作ボランティア 副代表
- ・齋藤 一雄：上堰潟公園を育てる会 代表
- ・佐藤 譲：六郷池組合 代表
- ・佐藤 安男：水の駅「ビュー福島潟」館長
- ・高橋 剛：内沼自治会 会長
- ・中島 榮一：潟東樋口記念美術館・潟東歴史民俗資料館 館長
- ・中村 忠士：じゅんさい池を守る会
- ・松浦 和美：新潟市南商工振興会 理事
- ・丸山 紗知：新潟県立自然科学館 学芸員
- ・宮尾 浩史：宮尾農園 代表
- ・村山 和夫：松浜コミュニティ協議会 地元学部会 部会長
- ・森 行人：新潟市歴史博物館（みなとびあ）学芸員
- ・山口 浩二：新潟市南商工振興会 副会長
- ・山崎 敬雄：特定非営利法人 いいろこ十二潟を守る会 会長
- ・涌井 晴之：佐潟と歩む赤塚の会 代表
- ・渡辺 重雄：北山池公園の自然を愛する会

※上記で掲載している肩書き・役職等は平成29年度中のものです。

新潟市潟環境研究所 平29年度 第1回定例会議（概要）

日時：平成29年6月5日（月）午後2時～午後5時15分

場所：新潟市役所執行部控室

■会議概要

1 「潟環境研究所活動報告書 一潟と人との未来へのメッセージ」完成について（潟環境研究所事務局）

2 報告及び情報提供

- ・平成29年度潟環境研究所体制について（潟環境研究所事務局）
- ・平成29年度潟環境研究所の活動について（潟環境研究所事務局）
- ・「近代文明の矛盾・水俣病を映画『阿賀に生きる』を鑑賞しながら考える」（平成29年度にいがた市民大学公開講座）について（潟環境研究所事務局）
- ・「いろいろこ十二潟を守る会」立ち上げと用地購入のための寄付金募集について（山崎敬雄相談員）

3 講義「新潟砂丘南西端地域の地形」（澤口 晋一客員研究員）

平成29年度から潟環境研究所の客員研究員となる新潟国際情報大学の澤口晋一氏（地形学）による、これまでの研究と当研究所での研究の展望についての講義。

過去2年の「新潟砂丘南西端地域の地形に関する研究」で得られた新たな知見としては、以下の3点である。

- ・新砂丘Ⅰ、Ⅱは砂丘ではなくバリアー上に形成された「浜堤列」である
- ・新砂丘Ⅲにおけるパラボリック砂丘、バルハン砂丘の存在を確認
- ・佐潟北岸の大規模地すべりの発見

今後、佐潟以外の湖沼付近の地形についても、米軍撮影の空中写真や現地調査を基に、3D画像の作成や地形学図の作成を進めていきたい。

新潟市潟環境研究所 平成29年度 第2回定例会議（概要）

日時：平成29年7月27日（木）午後2時30分～午後5時

場所：新潟市役所対策室1

■会議概要

1 報告及び情報提供

- ・潟めぐりスタンプラリーの実施について（文化創造推進課）
- ・十二潟に関する活動について（山崎敬雄相談員）

2 講義

「新川開削と慶応の底樋探查」（加藤功相談員）

新潟市西区榎尾で江戸時代から大正時代に西川と新川を立体交差するために使われていた水路「底樋」の一部が約100年ぶりに出土（7月22日）。新川開削の歴史と底樋の掘削作業についての報告。

「アカミミガメ対策について」（井上信夫協力研究員）

新潟県内で確認された淡水カメ類の概要とミシシippアカミミガメ対策の事例報告。

3 潟の魅力発信強化についての意見交換

「新潟市広報戦略 ～もっと！伝わる・目立つ・拡がる広報へ～」（広報戦略課）

「伝わる広報とは何か」の視点から新潟市の戦略的広報の基本的な考え方について講義。戦略（広報の目的の設定）

と戦術（具体的手段の検討・実施）を区別して考えることが重要である。

意見交換

- ・刷り物を配布するだけで満足するのではなく、相手から反応を受けることが大事
- ・地域の魅力を伝えるには、まず地域の人が地域の魅力を知る
- ・市のホームページでは情報がなかなか更新されないので改善するべき

新潟市潟環境研究所 平成29年度 第3回定例会議（概要）

日時：平成29年9月28日（木）午後2時30分～午後5時

場所：新潟市役所対策室1

■会議概要

1 報告及び情報提供

- ・「砂丘ウォーキング講座」開催について（太田和宏協力研究員）

2 講義

「3年間の調査・研究活動の総括」（吉川夏樹客員研究員）

「鳥屋野潟の水と機能を守る一田んぼダムによる土砂流出抑制一」、「浅水域における魚類資源量調査装置の開発」についての報告。

「アカミミガメ及び錦鯉に関すること」（井上信夫協力研究員）

第2回会議からの引き続き、新潟県内で確認された淡水カメ類の概要とミシシippアカミミガメ対策の事例報告。錦鯉をはじめ、飼育品種を野生に放流することについて。



吉川客員研究員の研究成果報告の様子



井上協力研究員の事例報告の様子

新潟市潟環境研究所 平成29年度 第4回定例会議（概要）

日時：平成29年11月30日（木）午後12時40分～午後6時

場所：新井郷川排水機場、福島潟放水路管理所、北区文化会館ほか

■会議概要

1 新井郷川排水機場や福島潟放水路など福島潟の排水系統に関する現地見学

主な見学場所

- ・胡桃山排水機場（阿賀野川河川事務所胡桃山出張所）
- ・新井郷川排水機場（施設見学）

- ・福島潟放水路管理所（施設見学）
- ・棕堰

2 北区文化会館で大熊所長による講演を聴講



新井郷川排水機場で説明を受ける



新井郷川排水機場の除塵機を見学



福島潟放水路の豊栄潮止堰



北区文化会館での講演の様子

新潟市潟環境研究所 平成29年度 第5回定例会議（概要）

日時：平成30年1月25日（木）午後2時30分～午後4時30分

場所：新潟市役所対策室1

■会議概要

1 報告及び情報提供

- ・2月18日のノ鳥くん野鳥観察会（環境政策課）
- ・新潟市の鳥「ハクチョウ」に関する取組み紹介（環境政策課）
- ・「とやの潟ウインターキッチン2018」について（事務局）
- ・シンポジウム「湿地と共生する都市の未来」（3/14）について（事務局）
- ・「世界湿地の日記念シンポジウム」（2/2）への参加について（事務局）
- ・平成30年度事業概要について（事務局）

2 講義

「瓢湖と白鳥保護の歴史」佐藤 巖氏（瓢湖の白鳥を守る会 事務局長）

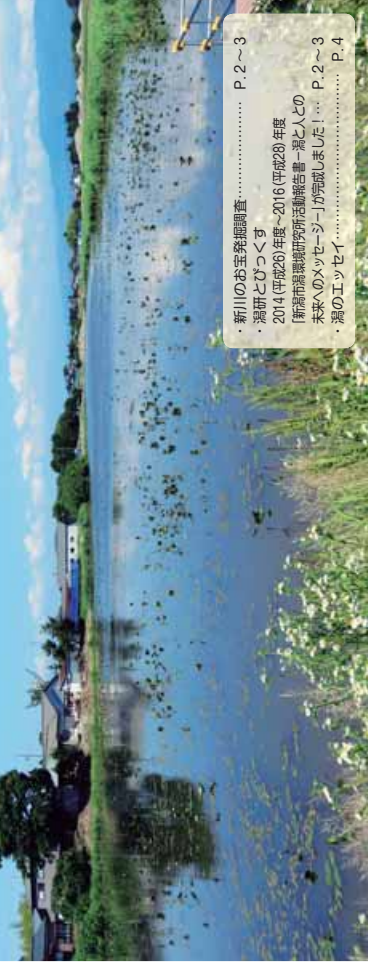
1950年に白鳥が瓢湖に飛来してからの保護活動の歴史と、ラムサール条約に登録されるまでの歴史を紹介。ヘドロの堆積が進み、水深が浅くなっていることなど、現在の課題が報告された。

潟環境研究所 ニュースレター

Wetland Environment Research Laboratory, City of Niigata

第7号 2017年9月 新潟市

潟と人とのより良い関係を探求し、
潟の魅力と価値を再発見・再構築。



- ・新川のお宝発掘調査..... P.2~3
- ・潟研とぴっくす
2014(平成26)年度~2016(平成28)年度
[新潟市潟環境研究所活動報告書-潟と人との
未来へのメッセージ]が完成しました！..... P.2~3
- ・潟のエッセイ..... P.4

“いろいろこ”十二潟を守るために

山崎 敬雄 潟環境研究所外部相談員 / NPOいろいろこ十二潟を守る会 理事長

十二潟は阿賀野川の乱流蛇行時の面影を今に残す三日月湖です。かつては阿賀野川の本流で、地元では「古阿賀(ふるあが)」と呼ばれています。1917(大正6)年、当時の内務省により阿賀野川の大幅な改修工事が始まり、蛇行部分が堰防によって切り離され、十二潟の原型ができました。その後、蛇行部分が廃川となり、民間への払い下げで個人所有地となり、現在に至っています。

かつては川幅が48間(約87メートル)もあり、対岸の耕作地への往来には「たぐり舟」を使っていたといわれています。面積は約6ヘクタールほどに減り、土地改良区の水路部分以外は個人所有地のため、埋立てや不法投棄などにより、約1.6ヘクタールほどの水面が残るのみになっています。



十二潟で生育するアサザ

そのような状況の中で、2001(平成13)年に、旧豊栄市で住民自治の組織として岡方地区コミュニティ委員会が立ち上げられ、ここで、地域の共通資源であり、課題でもあった十二潟の環境保全に焦点が当てられました。不法投棄対策として、毎年50~60人による一斉清掃がコミュニティ事業として行われており、ゴミの量は年々減少してきています。2007(平成19)年、2008(平成20)年には、新潟市が十二潟の植生・生物調査を実施した結果、アサザ、ガガブタの群生をはじめ、動植物161種類が確認され、十二潟固有の生態が残っていることもわかりました。特にアサザは「長花柱花」と「短花柱花」という異なるタイプの花粉をやりとりすることで種子が生産されますが、十二潟のアサザは自家和合生が高く「等花柱花」という非常に珍しいタイプの花型であることも明らかになっています。

2012(平成24)年からは、岡方地区コミュニティ委員会と地元岡方第一小学校の総合学習の時間を利用して、潟の歴史や水質調査、生態調査、外来種(チクゴスズメノヒエ)の駆除などを行い、潟の環境保全に努めています。

今後の課題は、地域の宝である十二潟をいかに次世代に引き継いでいくということです。岡方地区コミュニティ委員会では、NPO法人「いろいろこ十二潟を守る会」を立ち上げ、残された約1.6ヘクタールの水面の買い取りを目指すことにしました。ちなみに「いろいろこ」は「良い所」という意味の方言です。今後も、貴重な自然が残る地域の宝を守るために、保全活動の充実を図っていききたいと思います。

※NPO法人いろいろこ十二潟を守る会では、潟の固有地帯分購入と保全活動のために、1口3,000円の寄付を呼びかけています。寄付の申し出しについては、右記までお問い合わせください。参考のほかに銀行振込による寄付も受け付けていることです。

問い合わせ先
NPO法人 いろいろこ十二潟を守る会
〒950-3353 新潟市北区長戸邑4601番地 (岡方コミュニティセンター内)
TEL 025(387)3331 FAX 025(686)7496

新川のお宝発掘調査

加藤 功 潟環境研究所外部相談員 / 越後新川まちおこしの会世話人

全国有数の米生産高を誇る西蒲原郡の美田が現在の姿になつたのは、古いことではありません。西蒲原のほとんどは低湿地帯でした。この低湿地帯の排水を良くするため、中野小屋村の庄屋・伊藤五郎左衛門を始め17名が願人となり、天井川の西川の下に水路トンネルを埋め込み、その水を日本海まで流す放水路工事を自費で行いました。2年の歳月と2万6千両、160万人の労力により1820(文政3)年1月、「底樋」と呼ばれる2門の木製製管が完成し、釜湯・田湯・大湯などの周辺の排水が徐々に進み、この放水路は新川と呼ばれるようになりました。この底樋工事は、江戸時代、全国でも最大級といわれています。

その後、底樋は2門から3門に増設され、また排水能力が不十分で上流の水が吐けないため、5門まで増やされました。その後の洪水で破壊された底樋は1867(慶応3)年に大改修され、それから今年でちょうど150年の節目となりました。その後、木製底樋より煉瓦と花崗岩力門の新川暗闇となり、更に現在の鉄製トラスの西川水路橋(昭和29年完成)に至っています。西川水路橋の傍に専門学校があり、3月末で移転しましたが、ここはかつて新川が流れ、慶応の三湯橋2門があった場所でした。明治末の新川暗闇工事の際不要となった2門の底樋は、上部の板を外し敷地内に埋設されているのではありませんかと私たちは考えていました。その校舍撤去工事が4月より始まったのを機会に、専門学校と新潟市に発掘の協力を依頼するなど、多くの皆さまの協力を得て、大正時代に作られた図面を基に、現地測量と地下のボーリング調査を行いました。その結果、地下4.2メートルに、水平に木製の埋蔵物があることが判明しました。この慶応の底樋は、逆流防止扉が付いたものといわれ、当時の技術水準を推測する上で欠かせないものであり、貴重な越後の土木遺産であると思っています。江戸時代の絵図を見ると、田んぼに水を揚げる「踏み車」を一列5台配置し、それを10段にして落差3メートルの地下に湧く水を排水していますが、当時の苦勞の一端を見る思いです。



踏み車を伴って掘り出した底樋工事(出典:新潟県史資料館442頁)



底樋工事を行った当時の西蒲原と新川

潟研とぴっくす

2014(平成26)年度~2016(平成28)年度

「新潟市潟環境研究所活動報告書-潟と人との未来へのメッセージ」が完成

当研究所では、平成28年度の設立から平成28年度までの3年間の活動を、報告書としてまとめ公表しました。報告書は3部構成で、活動・調査の報告のほか、潟の歴史や現状をふまえた提言を掲載しています。

“潟と人との未来へのメッセージ”と題した提言は「守る」「継ぐ」「生み出す」「伝える」「高める」の5つの視点から取りまとめられています。豊かな自然環境の維持や交流人口の拡大などの効果を期待して、潟の生物多様性の保全や里潟ブランドの確立、潟文化の魅力発信などを含む10項目の取り組みを提言しています。

活動・調査報告では、調査・研究の成果や、開催したシンポジウムの概要などを紹介しています。また、調査対象とした16カ所の潟それぞれの特徴や歴史、周辺の暮らしなどを解説し、それぞれの潟に関わる地域住民などの寄稿文もあわせて掲載しています。

なお、この報告書は市立図書館で貸し出ししているほか、ホームページや公式ウェブサイト「潟のデジタル博物館」からも見る事ができます。



この跡地に量は販店が建設されるため、大型重機により発掘作業ができる日数は2日間でした。新潟市と協議を重ね、今回は発掘調査であり、遺構が出ても取り出さないことを確認し、6月21日より試験を行いました。

覚悟していましたが、70センチメートル掘ると水が湧き出てきたので、強制的に水を吸い上げるウエルポイントとパイプを約20枚力所に設置し、排水しながら作業しました。また、地下3メートル以上掘るため、4段に分けて掘り進めました。重機はアームが二段に伸び、10メートル先の場所を掘り返せる特殊なものでした。

6月22日、地下4メートル付近に6寸(約18センチメートル)角の柱のような物が出てきました。その後、もう1本の柱も発見されました。また、柱の下の地下付近にはぐり石と思われる土工事を行った形跡もありました。ですが、地下水が湧き出てくると、重機の下の地盤に亀裂が生じ始めるなど、これ以上の掘削が困難となり、作業は終了となりました。

今回の掘削調査で木製底樋の本体を見つけたことは叶いませんでしたが、あの跡地に2門の木製底樋がまだ残されている可能性が高いことも証明されました。今回発見された柱は、底樋の外枠の柱の一部ではないかと思っています。そして、今回は試掘であったため埋戻ししましたが、後世の人が掘り返すまで、再び眠りにつくことになりました。多くの関係者の皆さまに大変感謝しております。



大正2年新潟工場の跡の川幅を狭めたため高欄に残った底樋部分
(出典：大正2年新潟県発行「西川改良新川底樋改造工事概文」)



地下4メートルまで掘り下げた新川沿いの掘削現場



地下4メートル近くで見つかった2本の6寸柱



三湯樋：高さ1間×幅3間×長さ46間
当時の底樋の大きさと発見された柱の位置

成しました！

◎活動報告書の主な内容

- 第1部 活動報告：3年間のあゆみ**
研究所の概要、活動紹介(調査・研究活動、ネットワーク構築及び連携強化、調査・研究成果などの情報発信、総合窓口としての支援・協力)など
- 第2部 調査報告：新潟市の「漏」**
漏の生態・生物、漏の変遷・歴史・暮らし文化、16の漏の特性など
- 第3部 提言：漏と人との未来へのメッセージ**
自然と共生する大都市「ラムサール条約都市・新潟」としての提言

- 【提言1】** 里漏として漏の生物多様性を保全する
- 【提言2】** 現存する漏の水圏・景観を保全する
- 【提言3】** 漏の役割を見直す
- 【提言4】** 越後平野の成り立ちを伝える「小さな漏」に光をあてる
- 【提言5】** 漏と共生した地域社会を実現できる学びの充実にを図る
- 【提言6】** 漏への親しみを深める空間づくりをする
- 【提言7】** 地域を活性化するための里漏ブランドを確立する
- 【提言8】** 新潟らしい漏文化や漏の魅力の発信力を強化する
- 【提言9】** ラムサール条約湿地(「漏」)の存在価値をさらに高める
- 【提言10】** ラムサール条約への登録により
越後平野ラムサールカルテットを形成する

「漏」のエッセイ

① モクスガニと福島漏

川島 由裕/水の駅「ビュー福島漏」レンジャー

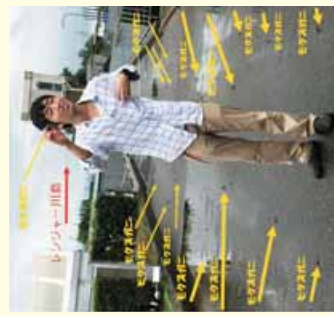
新潟市の漏の中で一番面積の広い福島漏。野鳥などの生きものが多く集まるこの場所で、私は水の駅「ビュー福島漏」のレンジャーとして働いています。福島漏は五頭山系の山々と川でつながっており、最終的に水は日本海に行き着きます。しかし福島漏は日本海より水面が低いいため、自然に海へは流れいきません。新井郷川排水機場という場所で、ポンプの力によって水を海へ汲みだしています。

今年、大雨の降った7月3日に、ビュー福島漏の職員研修でこの排水機場を実際に見学する機会がありました。一日で大量の水を汲み出す排水能力や、流れ着いたゴミなどもしっかりと分別処理をする仕組みにとっても感心しました。

そしてもう一つ、排水機場に来て驚いた事がありました。それは、排水機場の周りに数えきれない程の小さなカニの大群が、敷地を這っているのが見られたことです。中には施設の屋内にまで入り込んで、足元をウロチョロしているものもいました。このカニは「モクスガニ」という種類のカニで、中国のシャンハイガニと呼ばれるものに近い仲間です。後日、福島漏の漁師さんに話を聞くと、地元では「川ガニ」と呼ばれ、9～10月くらいに網を仕掛けて漁をするので、「秋の川ガニ」は雄が美味い、漏の貴重な宝物だ」と話していました。

オスのハサミには、フサフサの毛がついていて、まるで手袋をしているような風貌が特徴です。モクスガニは海で生まれ、成長しながら上流へ向けて川を上ってゆき、成熟するとまた川を下って海で産卵をします。そんな習性があるということを知ってはいいたもの、本当に福島漏と海を行き来しているのが疑問に思っていました。なぜなら、福島漏と海の間には排水機場があり、水の流りが分断されているので、川から海に行くことも、海から川に上ることもできないのではないかと思ったりです。ひょっとして、わざわざ海まで行かず、漏の中だけで繁殖してしまっているのではないだろうか？そんなことまで思っていました。

しかし実際には、モクスガニはもずくでコンクリートの壁を登り、排水機場を越えてしっかりと上流へと向かって進んでいるということが分かりました。私はモクスガニたちの姿を目の当たりにし、生きものの力強さやたくましさを感じました。モクスガニは漏と海がつながっていることを、私たちに証明してくれました。地元の人たちにとっては貴重な漏の楽しみでもあるモクスガニが、いつまでも見られることを願っています。



場内でビックリ！敷地に小さなカニがたくさん



ゆであげられた福島漏のモクスガニ



新井郷川排水機場を越えるモクスガニの幼体



発行

2017(平成29)年9月
新潟市地域・魅力創造部 環境研究所事務局
〒951-8550
新潟市中央区学校町通1-602-1(市役所本館4階)
☎ 025-226-2072
fax 025-224-3850
e-mail katakaen@city.niigata.jp
URL http://www.city.niigata.lg.jp/shisei/katakaen/index.html
Facebook ページ



新潟市 漏のデジタル博物館

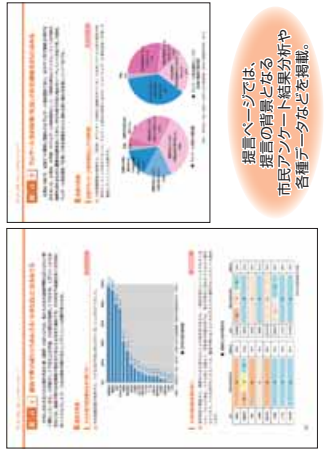
NIIGATA City Wetland Digital Museum
新潟市内に点在する漏(湧)に関する資料や情報をまとめたデジタル博物館です。
URL http://www.niigata-satokata.com/

新潟市漏環境研究所について

本市には、地域の暮らしに根差した「里漏(さとかた)」もいくつか個性豊かな漏が多く残っています。当研究所は、これらの漏と人とのより良い関係を探求し、漏の魅力や価値を再発見・再構築するため、平成26年4月に発足しました。漏に関わる多くの皆さまと連携しながら、自然環境や歴史、暮らし文化などについて、調査・研究を進めています。



提言ページでは、漏の背景となる市民アンケート結果や漏の現状などを踏まえて検討。各種アンケートなどを掲載。



潟環境研究所 ニュースレター

Wetland Environment Research Laboratory, City of Niigata



Eホーム新入生歓迎会に協力してもらった佐潟と歩む赤塚の会メンバーとの記念撮影
写真提供 小沢 由高

- ・絵巻展に寄せて…………… P. 2
- ・潟研とひびく①②③…………… P. 3～4
- ・「河童のユウタの冒険」の世界…………… P. 4～5
- ・河童のユウタの冒険…………… P. 6～7
- ・物語の中の生きもの…………… P. 6～7
- ・潟のエッセイ…………… P. 8

第8号 2018年3月
③新潟 前

潟と人とのより良い関係を探求し、潟の魅力と価値を再発見・再構築。

「はじめて」を五感で、佐潟

青森県弘前市育ち、「それなりに」をモットーに何不自由なく暮らしてきた私が、縁もゆかりもない新潟に来て、潟の魅力にどっぷりつかまりました。そのきっかけは、ずばりEホームで佐潟の楽しさを知ったからです。

新潟大学には、地域貢献を目的としたダブルホームという制度があります。学部・学科の垣根を超え、学生と教職員が地域と連携して県内外の各地で地域活動に取り組んでいます。Eホーム（アース・アース）は、そのなかでも新潟市西区赤塚の佐潟で活動する市民団体の「佐潟と歩む赤塚の会」（以下、歩む会）にお世話になっていきます。



潟舟に乗って佐潟まつりの準備の合間に

柚子の風味がまた違った味わいになったあの味が今でも懐かしいです。このように、潟は「はじめて」を五感で体験できる、まさに自然の知的アジトだと私は思います。

佐潟をどうすれば効果的に発信できるか考えている最中ですが、Eホームには写真撮るのが上手い人間や食べるのが大好きな人間など個性あふれるメンバーが揃っています。佐潟の自然で培われたみずみずしい感性を持つそんなメンバーと力を合わせて、もっと潟の楽しさを広めていきたいです。



Eホーム8代表の代表者
稀めた村元さん

私が歩む会のみなさんと佐潟で経験した「はじめて」は、茹え切れません。サギという鳥にダイサギ、チュウサギ、コサギなどという種類があると知りませんでしたし、潟舟を漕ぐ難しさ、蓮の実の塩ゆでの味、佐潟やその周辺の地形の面白さ、虫のちよっとした声の違いも知りませんでした。また、歩む会の忘年会にEホームの学生も参加させていただいたとき、「これがうまいんだ」と柚子の皮を剥き、鯉汁に加える食べ方をはじめて教わりました。赤塚の一部の地域では柚子の皮をまるまる野菜のように食す文化があるそうで、佐潟で育った鯉の脂がたっぷり浮き出した鯉汁が、



新大塚でのハスフラワー作りワークショップ

絵巻展に寄せて

中島 榮一 潟環境研究所外部相談員／潟東歴史民俗資料館 館長



蒲原の低湿地を象徴する蘆蒿。その蘆蒿及びその周辺の小川には鯉（なます）が生息しています。鯉は淡泊な味が好まれる食材でした。また、鯉には地下の動きを伝える力があり、地震活動を素早く伝えると信じられ、現在も研究対象となっています。

潟東歴史民俗資料館では、2017（平成29）年10月31日から2018（平成30）年1月14日まで「絵巻展」を開催しました。以下、その概略です。絵巻は湯塚・五上の笹川謙六氏の所蔵品です。絵巻は幕末に江戸で流行しましたが、それが越後で所蔵されたことは興味深いことです。

江戸時代後半、社会不安が増大しました。例えば天保の改革の失敗、外国船の来航（黒船）、討幕運動、自然災害などがありません。

自然災害のうち、地震では越後地震（三条地震）・文政11（1824）、善光寺地震・弘化4（1847）、小田原地震・嘉永6（1853）、伊勢・東海・南海地震・安政1（1854）と連続して大地震が発生していました。

そこに安政2年（1855）、江戸の市街地を中心に大地震が発生しました。百万都市に発生した大災害です。被害も死者傷者1万人弱、焼失・倒壊家屋多数・地割れなど各地に発生、まれにみる大惨事となりました。

良寛は、三条地震をはじめとする自然災害や社会状況、人心の類藤（たいは）いと政治の不信の結果であると考えています。良寛は自然を身近に感じていたに違いありません。明治以降、科学技術の進展革新に伴い、人間は限定的にしろ、自然を制御可能であるとの考えが強くなってきています。

絵巻は安政2年の地震発生直後から発行された浮世絵版画（錦絵）です。五版としても配布されているので、現在の新聞の役割も兼ね、被害状況を伝えていきます。それでは地震と鯉の関係はどうなっているのでしょうか。

当時の人々の間には「鯉が地中で寝ると地震が発生する」との言い伝えがありました。そのため鯉は、地震被害者にとって敵愾にならざるを得ませんでした。

人々にとって、誰を恨む訳にも行かない自然災害です。しかし、現実には筆舌に尽くし難い甚大なる被害が発生し、それを目の当たりにしている訳です。その怒り、恨み、悲しみなどの矛先は、地震発生の原因とされた鯉に向けられました。鯉に対して思いのたけを発散することで、怒り、恨み、悲しみの気持ちの軽減する効果がありました。

一方、鯉を地震を発生させる悪者とするだけでなく、鯉も人間と同じく自然の中の一員として捉える心の豊かさを持ち合わせていました。それが鯉絵で「地震のお蔵で仕事にありつけた。金回りが良くなった」[地震のお蔵で生活が向上きになりました]との期待感も人々に植え付けました。

鯉絵は当時の状況を、ユーモアを交え漫画化したものですが、人々がその内容に共感や諷刺を覚える、話題とすることで、被害者としての気持ちを多くの人々と共有することができました。また鯉絵は、庶民の鯉絵に対する批判を代弁する役割も果たしました。

このように鯉絵は被害情報を伝達すると同時に、人々のつらさ、怒りの気持ちを併せて、鯉の滑稽さが笑いを誘い、人々にとって大災害を乗り越える手掛かりになった可能性があります。そのため、人々は鯉について「鯉絵」を購入、大量に販売されました。鯉絵が増えれば増えるほど、内容は多様化しました。被害者にとって精神的和らぎをもたらした鯉絵は歓迎されたに違いありません。

一方、幕府にとっては為政者への批判に当たると内容も多くみられることから鯉絵を取り締まらざるを得ませんでした。こうして鯉絵はその役割を終えることになりました。



鯉絵「平の建綱」(写真真上)には「貧富をひっかきませで鯉らが世を太平の建綱とする」と書かれています。鯉の起こした地震のおかげで、社会は建綱をめぐり好景となり、貧富の差を平らにならしたと解釈できるそうです。

とびっくす

潟にまつわる3つの旬な話題をお届けします！

とびっくす① NPO法人いいるこ十二潟を守る会が十二潟の水面用地を取得！

ニュースレター第7号（2017年9月発行）で、十二潟の残された約1.6ヘクタールの水面の取得を目指しながら、保全活動に取り組みNPO法人いいるこ十二潟を守る会についての記事掲載しました。そしてこの度、2017年12月に大勢の個人や団体からの支援を受け、無事用地の取得ができたという報告がありました。

十二潟には貴重な植物が生育しており、取得した用地を中心に、自然環境を保全し、学校教育や地域の皆さんが楽しめるような場所として活用できるような活動を進めていくことです。

今後、貴重な潟群を次世代に引き継いでいくためにも、潟を守り続ける人々の活動をみんなでお援していきましょう！



とびっくす② 市の鳥「ハクチョウ」について 小林博隆／新潟市環境政策課

新潟市では、平成26年10月に市の鳥「ハクチョウ」を制定しました。ハクチョウは新潟市になじみの深い鳥で、本市の自然環境を代表する鳥であるといえます。ハクチョウは正式な名前ではありませんが、多くの市民の皆さんになじみのある名前として、オオハクチョウ、コハクチョウの総称である「ハクチョウ」としました。

新潟市はコハクチョウの越冬数が日本一で、その数は1万羽を超える程です。本市にはハクチョウがねぐらをとる潟や川がたくさんあります。また潟や川の周辺にはエサをとる田んぼが広がっています。これらの条件が重なり、ハクチョウが越冬しやすい環境ができあがっているのです。

今シーズン、例年より早く10月下旬にコハクチョウの飛来数が1万羽を超えました。右のグラフは毎年1月に行われている調査結果ですが、今年はいくつかのハクチョウが確認されています。このほか雪が多かったため、今年に入ってから佐潟に多く集まってくる傾向が顕著でした。また、夏間でもねぐらにとどまっているなど、例年とは少し違った様子も観察できました。

ハクチョウのような大きな野生の生きものが、私たちの暮らしている近くで見られることは、全国でもとても珍しいことです。ハクチョウを通して、本市の豊かな自然環境を感じていただきたいと思います。

ハクチョウたちは、3月には遠く北の繁殖地に旅立って行きます。春・夏の間はお別れとなりますが、稲刈りが終わり、秋が深まってきた頃にまたやってくることを願います。市民の皆さんとともに素晴らしい田園環境を持つ新潟市をいつまでも守っていきましょうと思います。

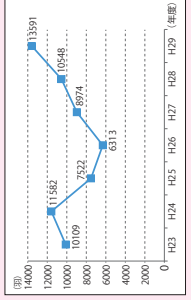


図. 全国カンガモ類の生息調査*における新潟県内のコハクチョウ飛来数
*調査者が新潟県に依頼し、毎年1月にカンガモ類の飛来数を調査したものを、県内では22地点(H29年度)で調査されています。

市の鳥「ハクチョウ」PRの取り組み事例



市の鳥「ハクチョウ」シンボルマークを公募決定



ハクチョウの特徴や越冬中の様子などを解説したガイドブックの発行



市民探鳥会の開催

このほかにも、市民の皆さんから協力いただいていた実施した「にいがた市民ハクチョウ調査」(平成27・28年度)や、ハクチョウが飛来する本市の潟や田園環境の魅力を伝える「市民ハクチョウ・ホワイト・フェスタ」(平成27年度)などを開催しました。これからも、観察会などをはじめ、さまざまなPRを行っていきたくて考えています。

とびっくす③ 読んでほしいこの1冊 ― 潟環境研究所のおすすぬめ図書を紹介！

「河童のユウタの冒険 上下」(福音館書店2017年刊)という本をご存じですか？ 福島潟がモデルの「恵みの湖」を最初の舞台として、物語が繰り広げられていきます。「恵みの湖」にすむ河童のユウタが、キツネのアカネと天狗のハヤテと共に、理由も目的もわからぬまま「龍川」の水源を目指して旅をする、そんな冒険物語です！



「河童のユウタの冒険」(上・下巻) 福音館書店刊 高藤孝夫/作 金井田英津子/画

金井田英津子さんが描く「恵みの湖」

福島潟在住の河童のユウタは、年齢が500歳程とのことですが、若々しく、河童の世界ではまだ青年のようです。この物語は現代が舞台であり、大河津分水が出てきたり、福島県原発事故も影を落としています。この物語には、日本人が縄文時代から培ってきた自然観、生命観、霊魂観が背景に流れており、子どもだけでなく、大人もワクワクしながら読める本です。おそらく、この本は今後日本の国民的文学になるものと思います。



大熊野所長が自筆を持っておすすめ！

「河童のユウタの冒険」の世界

恵みの湖

物語の始まりはユウタの住む「恵みの湖」。ここは、私たちが「福島潟」と呼んでいる潟のようです。福島潟に河童がいたなんて!!ユウタが毎日のように潟の鳥・魚・亀たちとふれあっているなんて。物語の導入部分から想像が広がりました。白鳥やオオヒシクイなど、水鳥がたくさん飛来していますが、怪我をして、人間に保護される鳥が、どんな思いでヒトの所へ来るのか。逆の立場から思うことも大切なことだと思ひ知らされました。



九尾の子孫

河童のユウタは、ひょんなことから狐、天狗と信濃川の水源を目指す旅をすることになります。この狐はただの狐ではなく九尾の狐の子孫、アカネでした。新潟にも狐が人を化かす話がたくさんあって、ゴヘイ狐やオオサンなど、名前を持つ狐が存在します。狸と違って狐はあまり目にしないので、新潟では狐はすていなものだと思っていました。数年前に新潟市内の某稲荷神社の鳥居で一匹の狐の遺体が発見されて、狐はやはり神秘的な生き物なのだ実感しました。長野県塩尻市栲蓐ヶ原に「玄蕃丞狐(げんぱのじょうぎつね)」という狐がいました。この狐は男気があり、文明開化に挑んで人



「北越奇談」にも紹介された青山御隣稲荷神社の狐

を化かし続けました。玄蕃丞狐は汽車に化けて汽車と正面衝突し絶命最期を迎えています。野山を切り開き、開発していく人間に、何かを訴えたかったのでしょう。当時の人々も感銘をうけて神社に祀ったそうですが、アカネの母である九尾の狐も人間たちに何かを伝えたくったのでしょうか。

九尾であったり、アカネのように二尾であったりと、尾が裂けるのは歳を燈た証拠で、「オサキ狐」と呼ばれたりもします。九尾の狐というのは平安時代、美女玉藻の前に化け、鳥羽上皇の側女となったといわれている狐です。上皇に悪い狐が取り付いたと退治されました。その狐の怨念は、近づくこと死んでしまうという殺生石になりました。この石が那須野にあるので、アカネは那須野に住んでいるのでしょう。実は殺生石は室町時代に玄翁（げんのう）和尚によって砕かれ、九尾の狐は成仏したと言われています。この玄翁和尚は越後の出身ですから、アカネは新潟とも関わりがあるのです。

天狗伝説

ユウタのもう一人の仲間、天狗のハヤテ。祭と神楽が大好きな明るい天狗です。新潟にも慈光寺の天狗伝説や、山から神楽を奏する音が聞こえるという御神楽岳という山があります。長岡市小松倉には「大天狗」という石碑があり、中越地震の時に地震の書が少なかったということから平成19年に「小天狗碑」が建てられています。天狗は人々の心のよりどころになっているようです。

そしてハヤテの前に現れる狐に乗った鳥天狗ですが、長岡市栃尾には長野の飯綱山で修業して飛行自由の術を得た「秋葉三尺坊大権現」が祀られています。この姿がまさにハヤテの親戚と思われる、狐に乗った天狗なのです。秋葉三尺坊はもともと人間なので、ヒトである私たちも、ハヤテになれる可能性があるかもしれません。



平成19年 長岡市小松倉に建てられた小天狗碑の祭り



平成29年開村の瀧之谷かっぱは(村立マレットゴルフ場)

河童のこと

さて、ユウタです。三人の旅は、人々のためにこの世から消されてしまい、黒いヴェールの中にかくされてしまった魂の救済で終わります。救済にはユウタの力が必要でした。

新潟には「アイヌ」という湿布薬を伝えている家が数軒あります。これは、河童を助けた人に河童が伝えた薬です。十日町市では河童は「スジッコ」と呼ばれています。これは「水神」という意味です。河童は生命の源である、水の神と考えられていたのです。ユウタはアカネ、ハヤテと共に、悲しい魂の救済をしました。

人間は便利な生活のためにたくさん命を奪ってしまっています。現在行われている寺泊の蟹供養や新潟の蛇頭様法要にも、そのような魂の救済の意味があるのかもしれません。

たくさん伝承を持つ福島

福島の名の由来として、「お福大蛇が紫雲寺湯の干拓から逃れてやって来たから」というものがありますが、福島の干拓が行われたときにお福は、鳥屋野湯に転居したとも言われています。また、亀女という妖怪が福島湯に出現したという話もあります。

ユウタも、このにぎやかな福島湯のどこかに潜んでいるのでしょうか。湯の鳥たちや虫たちに、ユウタのことを聞いてみたいですね。こんな想像が広がるユウタの物語、ぜひ一読ください。



小湯稲荷神社敷地内の小湯蟹頭様普賢(福島湯)

河童のユウタの冒険 ― 物語の中の生きもの ―

物語でユウタが歌う歌の中にはたくさん生きものがでてきます。そんなユウタの仲間たちを写真とともにご紹介します。福島湯に行ったら会えるかも!



オオヨシキリ (大鷲切)

福島湯を代表する夏鳥でヨシ原に生息するウグイスの仲間です。囀り声から「行行子(キョキョウシ)」とも呼ばれ夏の季節ともなっています。地元では「オオヨシキリ」と親しまれています。



コハクチヨウ (小白鳥)

「白鳥」として親しまれるカモの仲間。雌雄とも白色で幼鳥は灰色、家畜群で行動します。繁殖地の煙草アジア(シベリア)から4000kmの旅をして新潟に飛来し越冬します。



タゲリ (田鳥)

長い冠羽が特徴で背は緑色の美しい光沢のある冬鳥です。ミユウという子猫のような声で囀り、丸みのある翼でふわふわと羽ばたき飛びます。福島湯では春先に大群が見られます。



ヒバリ (鶯雀)

野原に暮る鳥。草原や農耕地などに生息する全長17cmの小鳥。繁殖期が始まると、鳴きながら空高く舞い上がるオスの雄張りの言の行動は古くから親しまれています。



天狗のハヤテ (金井田英津子/画)



河童のユウタ (金井田英津子/画)



ノスリ (鷹)

トビよりも一回り小さなタカで上面は褐色、下面は灰褐色です。腹面に茶褐色の羽毛があり腹巻に見えます。ネズミや小鳥などをよく食べます。福島湯ではカモを襲う行動もみられます。



オジロワシ (尾白鷺)

翼を広げると量ほどある大型のワシの仲間です。全身濃い茶色で尾が白いので、この名があります。冬鳥として飛来し福島湯では魚のほかカモも襲うので、飛翔時は大騒ぎになります。



カワセミ (鱈鯉)

宝石の翡翠(ひすい)の語源ともいわれる鮮やかな羽色で、飛び玉石といわれる人気の鳥です。くちばしが体の割に長く小魚などの水中の獲物を飛び込んで捕らえます。



ヨシ (葦)

イネ科の多年草で水際に2〜6mほどの背の高い群落をつくります。福島潟を代表する植物で、ヨシ原の風景は「鹽原原潟の町」と呼ばれるように、日本の原風景を思わせま



オニバス (鬼蓮)

スライム科の水車で浮葉性の一年草です。葉や茎、つぼみにも強いトゲがあります。真夏に広がる葉は2mを超えるものもあり、花は紫色で甘い香りがします。環境省絶滅危



ワシガエル (牛蛙)

1920年前後にアメリカから食用として持ち込まれたという外来種です。最大20cmにもなる国内では最大級のガエルです。鳴き声は「アオアオ」とワシに似ていて食性は肉食性です。



ヒシ (藨)

福島潟に多く生育する浮葉性の一年草です。水底に沈んだ種から長い茎を出し水面には葉が群生します。小さな白い花が咲き、秋に熟した藨形の果実(藨の実)は収穫され食



タヌキ (狸)

体長は40〜50cm、尾長約15cm、体重3〜5kgで体型は丸みがあります。繁殖地は主に里山ですが、福島潟でも時々親子で見つ



アメリカガザリガニ (アメリカ喇蟹)

体長は8cm〜12cmほどのアメリカ原産の外来種で水田や池などに生息します。子ども時代に誰も親しんだ生きものですが、何



ガマ (蒲)

抽水性の多年草で高さ1〜2mに生育します。夏から秋にかけて蒲の穂と呼ばれる茶色でソーセージに似た花穂をつけます。新潟の「蒲原郡」という地名は、ガマの風景を想像させ



ギンブナ (鯉鮒)

淡水魚アブナとも呼ばれます。成魚は15〜20cmで日本各地での重要な食用淡水魚でした。福島潟周辺は幼魚を稚魚(サツゴ)といい「ス



モクスガニ (鰯肩蟹)

海で生まれ川を上りながら甲幅7〜8cmに成長します。福島潟では晩夏から晩秋に出現し、秋から冬にかけて繁殖のために海へ下り



まだまだ物語の中にはたくさん生きものが出てきますよ。さてどんな生きものに会えるか…。あとは読んでのお楽しみ!! 生きもの解説：佐藤安男 生きもの写真：佐藤安男、井上信夫、水の駅「ビュ-福島潟」

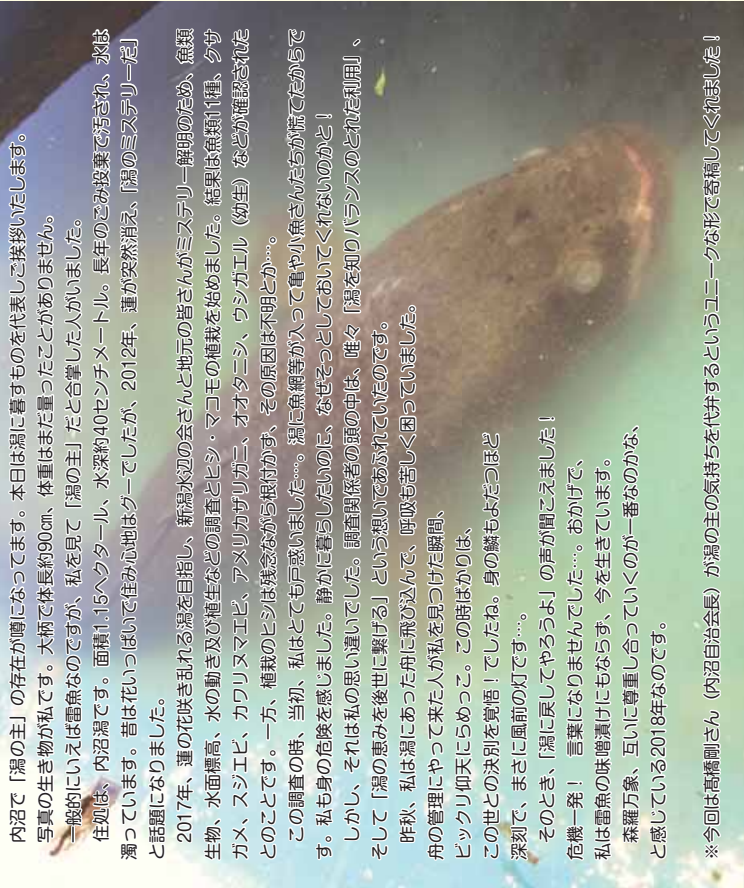


キツネのアカネ (金井田英津子/画)

潟のエッセイ

さて、内沼潟に生息する潟の主の正体は…?!
⑧ 「潟の主」です。ご挨拶いたします!

晩秋の内沼潟



内沼で「潟の主」の存在が噂になってます。本日は潟に暮すものを代表して挨拶いたします。写真の生き物が私です。大柄で体長約90cm、体重はまだ量ったことがありません。一般的にいえば雷魚なのですが、私を見て「潟の主」だと合掌した人がいました。住居は、内沼潟です。面積1.15ヘクタール、水深約40センチメートル。長年のごみ投棄で汚され、水は濁っています。昔は花いっぱい住み心地はグーでしたが、2012年、運が突然消え、「潟のミステリー」と話題になりました。

2017年、運の花咲き乱れを指し、新潟水辺の会さんと地元の方々からミステリー解明のため、魚類生物、水面標高、水の動き及び植生などの調査とヒシ、マコモの植栽を始めました。結果は魚類1種、クサガメ、スジエビ、カワリヌマエビ、アメリカガザリガニ、オオタニシ、ウシガエル(幼生)などが確認されたこととです。一方、植栽のヒシは残念ながら根付かず、その原因は不明とか…。

この調査の時、当初、私はとても戸惑いました…。潟に魚類が入って亀や小魚さんたちが慌てたからです。私も身の危険を感じました。静かに暮らしたいのに、なぜぞっとしておいてくれないのかと!

しかし、それは私の思い違いでした。調査関係者の頭の中は、唯々「潟を知りバランスのとれた利用」、そして「潟の恵みを後世に繋げる」という思いであふれていたのです。

昨秋、私は潟にあって来た人が私を見つけた瞬間、舟の管理にやっていた人が私を見つけた瞬間、ビックリ仰天にらめっこ。この時ばかりは、この世との決別を覚悟!でした。身の鱗もよたよたほど深刻で、まさに風前の灯です…。

そのとき、「潟に戻してやろうよ」の声が聞こえました! 危機一発! 言葉になりました。今を生きています。私は雷魚の味噌漬けにもならず、今を生きています。

森羅万象、互いに尊重し合っていくのが一番なのかな、と感じている2018年なのです。

※今回は高橋剛さん(内沼自治会長)が潟の主の気持ちを代弁するというユニークな形で寄稿してくれました!



発行

2018(平成30)年3月

新潟市地域・魅力創造部 潟環境研究所事務局

T 951-8550

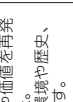
新潟市中央区学校町通1-602-1(市役所本館4階)

Fax 025-226-2072

e-mail kataken@city.niigata.lg.jp

URL http://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/kankyo/kataken/index.html

Facebook ページ



新潟市 潟のデジタル博物館

NIIGATA City Wetland Digital Museum

新潟市内に点在する潟(湖)に関する資料や情報をもとにしたデジタル博物館です。

URL http://www.niigata-satokata.com/

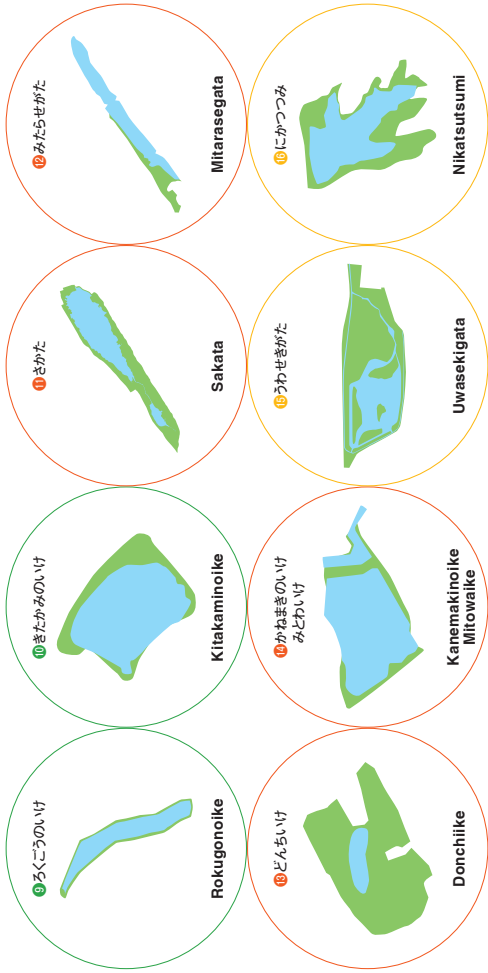


潟MAP⁺ PLUS

かたマップラス

新潟市の潟(湖沼)+瓢湖

—このマップとともに、新たな「潟」の魅力を見つけてみませんか—



※ 詳細に根拠の図は、各湖の形を再現するためのものであり、実際の大きさまの比縮とは異なります。

越後平野は低湿地帯であったため、戦国時代には現在より多くの潟が点在しており、福島潟や鳥屋野潟などは、その頃から存在していたことがわかります。越後平野の変遷をたどると、新潟市内の潟が、どのようにその姿かたちを変えていったのかを知ることができます。



■新潟市発行「新潟市史 通史編1 p.16」[越後平野の概観]、
新潟市歴史博物館発行「森図が語る みなと新潟」
p.10「戦国時代の三ヶ津と新潟中域のみなと」をもとに作成

にいがたの「潟」

古くから越後平野の湖沼は、その成り立ちなどにかかわらず、総称して「潟」と呼ばれてきました。潟は多くの動植物が生息・生育し、憩いや活動の場として“ふるさと”を象徴する存在です。

<p>1 福島潟 (ふくしまがた) 潟が市内最大の潟。国の天然記念物オオヒジクイの越冬地で、飛来鳥が日本一です。また、希少植物オニバス(の日本北限の自生地)もあります。 面積:約262ha 水面標高:-0.7m 所在地:新潟市 阿賀野市</p>	<p>2 内沼潟 (うちぬまがた) 福島潟とつながっていた小さな潟。江戸時代に築堤された山倉新溝(やまくらしんどう)によって、福島潟から分離されました。 面積:約1.15ha 水面標高:-0.6m 所在地:内沼</p>	<p>3 十二潟 (じゅうにがた) 純行した阿賀野川の一部が残った三日月湖。かつては阿賀野川の本流でした。地元では「古阿賀(ふるあが)」とも呼ばれています。 面積:約5.4ha 水面標高:1.6m 所在地:平林、十二、辰塚</p>	<p>4 松浜の池(ひょうたん池) (まつはまのいけ/ひょうたんいけ) 阿賀野川と日本海のすぐそばの砂丘地に位置する池。希少なトンボ類が確認されています。 面積:約2.2ha 水面標高:0.5m 所在地:松浜</p>
<p>5 北上の池 (きたかみのいけ) 能代川左岸の堤防沿いの県道の脇にある小さな池。地元では「切所(きりしよ)」と呼ばれています。 面積:約0.2ha 水面標高:4.3m 所在地:北上</p>	<p>6 六郷ノ池 (ろくごうのいけ) 阿賀野川の河道跡にできた池。ヘラブナ釣り場として知られています。 面積:約1.6ha 水面標高:6.5m 所在地:六郷</p>	<p>7 佐潟 (さかた) 上潟(うわがた)と下潟(したかた)の二つから成る潟。周辺を含めた佐潟公園区域が、1996(平成8)年3月にラムサール条約湿地として登録されました。 面積:約4.4ha 水面標高:4.8m 所在地:赤塚</p>	<p>8 御手洗潟 (みたらせがた) 佐潟の北側にある潟。この潟の名前は、かつて近くの神社にお参りする際、ここで手を洗い、身を清めたことに由来しています。 面積:約6.5ha 水面標高:6.6m 所在地:赤塚</p>
<p>9 かわまきのいけ 面積:約1.6ha 水面標高:6.5m 所在地:六郷</p>	<p>10 かわまきのいけ 面積:約0.2ha 水面標高:4.3m 所在地:北上</p>	<p>11 かわまきのいけ 面積:約5.4ha 水面標高:1.6m 所在地:平林、十二、辰塚</p>	<p>12 かわまきのいけ 面積:約2.2ha 水面標高:0.5m 所在地:松浜</p>

「潟」で見る・楽しむ

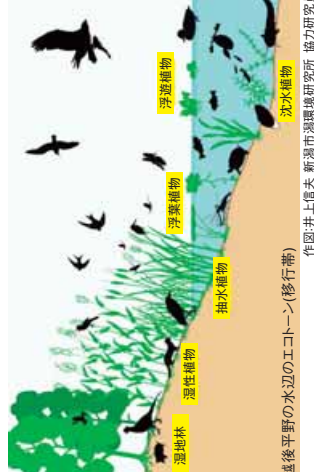


里潟

さと かた

多様な生き物たちが生育・生息する「潟」

潟には陸域や水域だけでなく、その境界となる移行帯があり、例えば、水上に茎と葉を伸ばす抽水(ちゅうすい)植物、葉を水面に浮かべる浮葉(ぶよう)植物、全体が水中にあり、水底に根を張る沈水(ちんすい)植物などが生育しています。抽水植物群落は野鳥のすみかや営巣場所として、また、浮葉・沈水植物群落は、野鳥だけでなく魚類や両生類、昆虫類のすみか、えさ場となります。多様な植物がすみ分けているこの空間は、多くの生き物たちが生育・生息している重要な場所なのです。

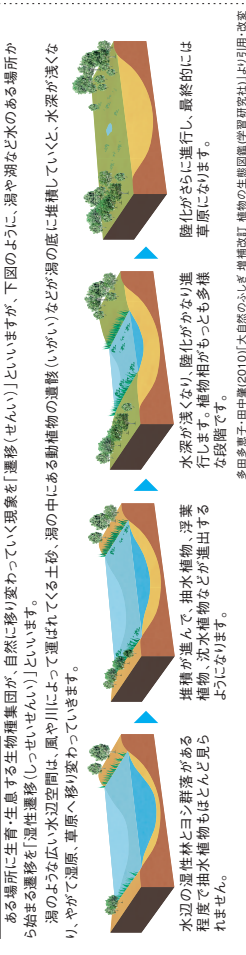


潟の環境と人の営みとの関係

昭和の中頃まで、潟端に住む人々にとって、フナ、ドジョウ、ナマズ、コイなどの魚、カモなどの鳥、ハスやヒジなどの植物は、重要な食糧源でした。また、植物の中でも、ヨシは屋根や壁の下地、ヨシの材料として利用されていました。人々がヨシを刈り取っていたことは、ヨシが吸収した水質汚濁の原因物質を潟の外へ排出することになり、潟の水質浄化に大きな役割を果たしていました。潟底の土は、多量の有機質を含み、肥料効果が高く、稲作をする上で肥料や苗床として利用されました。低湿地の干拓土やアゼ作りにも重宝したそうです。この潟底の土をかき揚げる「下口揚げ」は、潟が浅くなることを防ぎ、湿性遷移を止めることにつながりました。現在、生活様式や産業構造の変化に伴い、潟に対する人々の直接的な関わりは減ってきていますが、福島潟のヨシ焼きやヒンもちぎ、佐潟の潟普通餅やヨシ刈りなど、潟環境の保全につながる活動をしている人々もいます。



※ 湿性遷移(しっせいせんい)とは



潟に関する情報や歴史を知ることができる関連施設

北区郷土博物館	新潟市北区嘉山3452	TEL:025-386-1081
水の駅「ビュウー福島潟」	新潟市北区前新田乙493	TEL:025-387-1491
みなとびあ(新潟市歴史博物館)	新潟市中央区柳島町2-10	TEL:025-225-6111
江南区郷土資料館	新潟市江南区茅野川3-1-14	TEL:025-383-1001
佐潟水鳥・湿地センター	新潟市西区赤塚5404-1	TEL:025-264-3050
潟東歴史民俗資料館	新潟市西蒲区三方92	TEL:0256-86-3444
白鳥の里(白鳥資料館)	阿賀野市水原314-17	TEL:0250-62-2690(公営管理事務所)

※このマップでは、自然にできた湖沼のほか、歴史的に人々と関わり深い水辺空間として17の潟(湖沼)を掲載しています。

1 瓢湖(ひょうこ) 2 内沼潟 3 十二瀬 4 松浜の池(ひょうたん池) 5 じゅんさい池 6 鳥屋野潟 7 清五郎潟 8 北山池(きたやまいけ) 9 大瀬之池 10 北上の池 11 御手洗潟 12 トンチ池 13 金色の池(水戸際池) 14 鳥屋野潟(とやのやのたがた) 15 清五郎潟(せいごろうがた) 16 上堰潟(うわせきがた) 17 金巻の池(水戸際池) (かねまきのいけ/みどかわいけ)

★瓢湖(ひょうこ) 江戸時代に造られたため池を起源とする白鳥の飛来地として有名で、2008(平成20)年10月にラムサール条約湿地として登録されました。面積:約24ha 水面標高:約8m 所在地:阿賀野市水原

5 じゅんさい池(じゅんさいいけ) 東池(0.3ha)、西池(0.5ha)から成る砂丘上の池。初夏にはホトテリが飛び交います。この池の名前は、水生植物「ジュンサイ」に由来しています。面積:約0.8ha 水面標高:-0.3m 所在地:松園

6 鳥屋野潟(とやのやのたがた) 市街地に隣接し、都心部に貴重な自然環境を残す。遊水池として自然環境を整備しています。「清五郎」とは、かつての新田開発に関わった人の名前です。面積:約158ha 水面標高:-2.5m 所在地:鳥屋野ほか

7 清五郎潟(せいごろうがた) 鳥屋野潟の南側にある潟。鳥屋野潟で風雪が強い時に「ハクチムウのねぐら」として見られる「清五郎」とは、かつての新田開発に関わった人の名前です。面積:約2.0ha 水面標高:-2.5m 所在地:清五郎

8 北山池(きたやまいけ) 亀田砂丘のくぼ地にできた池。園を中心公園が整備され、園内では緑色の花を咲かせる桜「御衣黄(ぎいこう)」を見ることができます。面積:約1.6ha 水面標高:0.4m 所在地:北山

9 大瀬之池 面積:約5.6ha 水面標高:9.2m 所在地:仁箇

10 北上の池 面積:約11ha 水面標高:3.5m 所在地:松野尾

11 御手洗潟 面積:約0.7ha 水面標高:0.1m 所在地:木場、金巻

12 トンチ池 面積:約0.3ha 水面標高:2.6m 所在地:赤塚、中権寺

13 金色の池(水戸際池) 数多くの伝説が残る池。池の名前は、土地や水の権利をめぐる争われた所「論地(ろんち)」がなまったものと伝えられています。面積:約0.3ha 水面標高:2.6m 所在地:赤塚、中権寺

14 鳥屋野潟(とやのやのたがた) 市街地に隣接し、都心部に貴重な自然環境を残す。遊水池として自然環境を整備しています。「清五郎」とは、かつての新田開発に関わった人の名前です。面積:約158ha 水面標高:-2.5m 所在地:鳥屋野ほか

15 清五郎潟(せいごろうがた) 鳥屋野潟の南側にある潟。鳥屋野潟で風雪が強い時に「ハクチムウのねぐら」として見られる「清五郎」とは、かつての新田開発に関わった人の名前です。面積:約2.0ha 水面標高:-2.5m 所在地:清五郎

16 上堰潟(うわせきがた) 角田山の麓(ふもと)近くの潟。かつては農業の灌漑(かんがい)用水源で、自然が築き上げる公園となつていますが、豪雨時には雨水の流出を抑える調整池となります。面積:約11ha 水面標高:3.5m 所在地:松野尾

17 金巻の池(水戸際池) 数多くの伝説が残る池。池の名前は、土地や水の権利をめぐる争われた所「論地(ろんち)」がなまったものと伝えられています。面積:約0.3ha 水面標高:2.6m 所在地:赤塚、中権寺

新潟市 潟のデジタル博物館 URL <http://www.niigata-satokata.com/>

新潟市内に点在する湖沼「潟」に関する資料や情報をまとめたデジタル博物館です。

新潟市 NIIGATA City Wetland Digital Museum

新潟市潟環境研究所シンポジウム

湿地と共生する都市の未来

—2017年度研究事業報告—

日時 2018年3月14日(水) 18:30~20:50(受付17:45~)

会場 新潟日報メディアシップ 2F 日報ホール (新潟市中央区万代3-1-1)
※お越しの際は公共交通機関をご利用ください。

申込 定員/先着200名 入場無料
新潟市役所コールセンター(025-243-4894)へお申込みください。
※申込開始2月12日(月・振休) 受付時間8:00~21:00 年中無休

■プログラム

第1部 基調講演「人と自然と建築」

《講師》建築家 内藤 廣 氏 (パネルディスカッションにも参加)

第2部 プレゼンテーション

「潟・こころの風景—2050年の越後平野における人と自然—」

多様な自然が息づくゆたかな潟をとりもどし、越後平野を生きるひとびとのこころの風景に—潟環境研究所の依頼を受け、NPO法人GSデザイン会議が2050年に向けた潟の再生に関わる調査研究の成果を発表します。

《プレゼンター》

赤川絢珠/安藤理紗/北川まどか/坂本いづる/平田いずみ/裴宇翔—東京大学社会基盤学専攻 景観研究室

安達幸輝/外山実咲/橋本航征—法政大学都市環境デザイン工学専攻 景観研究室

小澤広直/吉澤広大/渡邊拓巳—早稲田大学建設工学専攻 景観・デザイン研究室



内藤 廣 氏
建築家
東京大学名誉教授

第3部 パネルディスカッション「ラムサール条約都市・新潟の未来」



《コーディネーター》
大熊 孝
潟環境研究所 所長



《パネリスト》
中井 祐 氏
東京大学 教授



《パネリスト》
福井 恒明 氏
法政大学 教授



《パネリスト》
佐々木 葉 氏
早稲田大学 教授

司会:樋口幸子 (フリーアナウンサー、潟環境研究所制作の記録映像「潟の記憶」ナレーター)

【主催・問い合わせ】新潟市地域・魅力創造部 潟環境研究所 電話 025-226-2072

平成29年度
新潟市潟環境研究所
研究成果報告書

平成31年3月発行
編集・発行

新潟市 地域・魅力創造部 潟環境研究所事務局

〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602番地1

TEL : 025 (226) 2072 FAX : 025 (224) 3850

E-mail : kataken@city.niigata.lg.jp

URL : <https://www.city.niigata.lg.jp/shisei/kataken/index.html>